

行って  
みた!  
やっ  
て  
みた!  
働い  
て  
みた!

# 玉川大学の近くで 突撃取材!

今月おじゃましたのは……

## 『ファインエステート』

マスターのこだわりメニューが楽しい  
ニューは、思わずスマホを出して写  
真を撮ってしまいます。「ファインエ  
ステート」名物のミルクティーがな  
ぜ生まれたのか、どんな思いでお店  
を続けているのか、マスターの小笠  
原直樹さんにお話を伺いました。

食べるのが大好きなマスターが  
大切にしているのは、他の店にはな  
い「ニッチなメニュー」を提供するこ  
と。ニッチとは「すぎ間」の意味。他  
のお洒落なカフェや喫茶店では出  
ていないようなメニューが、エステ  
ートにはたくさんあります。

開店は1998年。紅茶専門店と  
して文字通り、「良い茶園」の意味を  
込めて名付けました。茶葉を産地か  
ら直輸入するのはオープン以来変わ  
りません。一方で、「人から反対され  
れば反対されるほどやりたくなっ  
ちゃう」人だから、新しいメニューの  
基準は一貫して、ありきたりでない  
こと。その気持ちを「やつちやっ  
た感」と表現します。



私のおすめは抹茶のバ  
ルムとわらびもちが乗っ  
たブランド入りミルク  
ティー。予約なしならテ  
ィータイムが狙い目



内装はマスター  
が大学の友人とた  
てた。「10年持た  
せば」と考えていた  
ら20年も継続

DATA  
玉川学園7-8-9 ☎042-724-5388  
休み/日・祝 営業/11時半~22時(L.O.21時)

「やつちやっただ感」いつぱいのミ  
ルクティーは、ランチに合う飲み物と  
してここ10年で誕生してきました。  
普通の飲み物ではつまらないと色々  
なものを乗せた結果が今のメニュー  
になっています。乗せるおやつの方  
は、マスター自身が好きなもので  
あること。人気のミルクティートッ  
プ3は①オレオクランチ②雪見大福  
③パンダとコアラ(さくさくパンダ  
とコアラのマーチ)です。オープン  
当時は2種類だったディナーのフ  
ードメニューも、現在では70種類以上  
になったそうです。

長崎のご当地グルメのトルコライ  
スは、チキンライスにカツが乗っ  
ていて、両方とも好物の私は何度も注  
文してしまいます。メイン料理のト  
ルコライスと飲み物(名物ミルクテ  
ィー)と、サラダかスープかデザ  
ート2種類で1600円。消えたメニ  
ューは数え切れませんが、新しいも  
のを常に生み出していくマスターの  
思いが伝わり、店内は玉大生はもち  
ろん、ベビーカーに子どもを乗せた  
お母さんたちから勤め帰りのサラリ  
ーマンまで、幅広い客層でにぎわっ  
ています。(高)

## 気になる

モノ mono  
hito ヒト  
スポット spot

## おむすび食堂

DATA  
☎09017991899  
✉akita7048@gmail.com

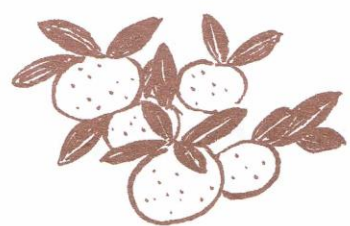


「食堂」と言っても、おじゃました12月の  
土曜日の会場は、玉川学園6丁目のなかよ  
し公園。子どもと地域の大人が世代を超  
えて遊び、おむすびと豚汁を一緒に作っ  
て、にぎやかに食べる場でした。玉川学園・南  
大谷地区協議会の補助事業のひとつで、名  
前の由来は人と人を「むすぶ」から。主催者、  
秋田史津香さんの「子どもたちの居場所を  
作りたい」という思いから昨年7月に始まり、  
子どもたちがお手伝いをする貴重な機会に  
もなっています。スターバックス町田金森  
店の協力で、食後にはコーヒーやお菓子が  
いただけるのもうれしいです。月2回程度、  
開催予定とのことなので、  
ぜひ足を運んでみて  
ください。(佐、中)

みんなと一緒に食  
べると、大人も子  
どももいつの間  
にか仲良くなって  
いるからすごい



## 「玉川学園に住んで



## 坂道と黄みかんは 私の玉川学園的ペアリング

4年前、玉川大学受験のため栃木県から  
一緒にきていた母が拾ってきたのが黄みかん。  
それは夏みかんとはさくを足して割  
ったような、子どもの頃を思い出すような  
味でした。学園創設者の小原國芳先生の出身地、  
鹿児島で栽培が始まったようです。このまちで  
ひとり暮らしをはじめ、玉川学園のまちを散  
歩すると、黄みかんをはじめ柑橘類を植えて  
いる家が多いと気づきます。最初に鹿児島から  
上京した人が多かったからかと方々聞いて回  
りましたが、確かなことはわからないままでした。

坂の多いこのまちで暮らしてから、無気  
力な日も、坂が苦しい冬の帰り道もありま  
した。でも黄みかんの緑から黄色に変わる  
様子はいつも小さな喜びで、空気が澄んだ  
日に見える丹沢の山々もお気に入りでした。  
そんな瞬間が玉川学園の日常にはたくさん  
あり、今は坂がある不便ささえも愛おしい。  
坂道と黄みかんの玉川学園的ペアリングは、  
ずっと私の心に残り続けます。(君)



## 大学×まちの活動あれこれ

玉川大学の学生はさまざまな形で玉川学  
園のまちと関わっています。メンバーが60  
人を超える大学公認のボランティアサークル  
「無果汁Juicys」は、玉川学園商店会の夏  
まつりで子どもを楽ませるブースを出して  
います。教員志望者のプラスになる活動を  
しようと集まった「PLUS-UP」はメンバー  
6人。ころころ児童館と南大谷子どもクラ  
ブを隔月で訪ね、ゲームなどで子どもたち  
と関わっています。ころころ児童館はボラ  
ンティア活動の場としてありがたい存在で  
す。教育学部の中村香先生の紹介もあり、  
5年間で30人以上がお手伝いをしてきまし  
た。学外では1980年結成の「かたつむり少  
年団」が知られています。現在指導員9人  
中7人が玉大生。日曜日に町5小に集まって  
小学生と企画を練り、季節ごとにキャンプ、  
クリスマス会、地域探検などのイベントを  
開いています。(武、肱、畑、半)

## 地域の大切さを学ぶ授業

いまの学校の先生にとって地域との関係  
づくりは極めて重要です。そのための経験  
を学生のうちにさせてあげたいという思い  
が「地域創生プロジェクトC」という科目の  
出発点でした。学生たちは、地域の様々な  
立場の方から話を聞き、まちの歴史を学び、  
まちの課題を考えてきました。その結果、  
学校と地域のつながりの大切さに気づいて  
くれたと思います。私自身、新たな発見が  
あり、貴重なつながりをもらいました。こ  
の授業が、玉川学園のまちを元気にするき  
っかけになればと願っています。ご協力  
いただいたみなさまに感謝申し上げます。(教  
育学部担当教員・中西茂)